



# 経営分析ニュース

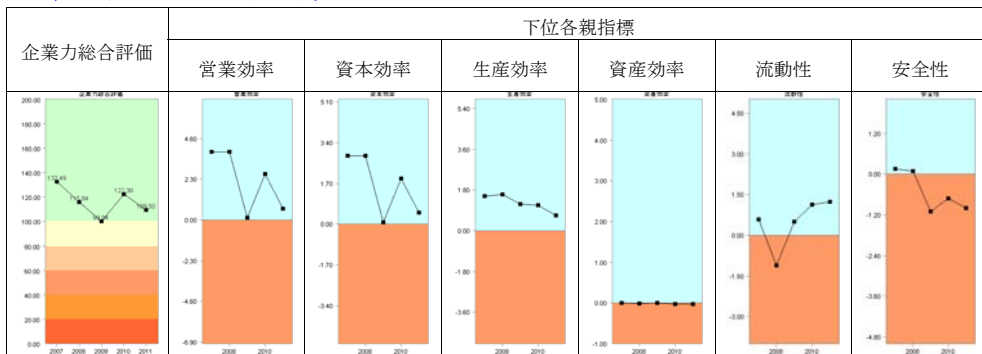
第72号

2011年11月20日発行

毎月20日発行

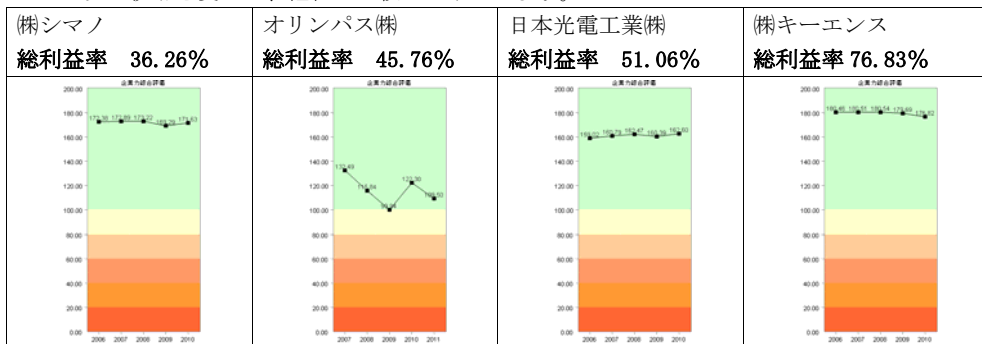
今回は、損失隠しで大きな問題を起こしたオリンパス株式会社を分析してみました。光学機器大手の同社は、1990年代に多額の有価証券投資を行い、バブル崩壊の影響で多額の含み損を抱え、その後、含み損が1000億円近くまで膨らみましたが、損失の計上を先送りしていました。

2006～08年には、健康食品販売会社や資源リサイクル会社など国内の非上場会社3社や英医療機器メーカー「ジャイラス」を次々と買収。3社の買収資金約734億円や、ジャ社の買収を仲介した米投資助言会社「Axes（アクシーズ）」などに支払った報酬約660億円の一部を含み損の解消に充てていたようです。



企業力総合評価は不安定かつ悪化トレンドとはいえ、青信号領域です。営業効率などの各指標も、安全性が赤信号領域にはまっている以外は、他の指標はギリギリ青信号領域です。一見して危機感を与える分析結果にはなっていません。

ここで少し視点を変えて、他社と比較してみましょう。



各社の企業力総合評価です。いずれも、売上高総利益率（粗利）の高い儲かる製品を作ることが出来る日本有数の会社です。4社の中で一番利益率が低いのは㈱シマノですが、36.26%という数字はかなり良い数字です。(2011年のトヨタ自動車㈱で12.52%)。オリンパス㈱はそれより良

い数字ですが、売上高総利益率のわりには企業力総合評価が良くありません。

そこで、営業効率（儲かるか）、流動性（短期資金繰）、安全性（長期資金繰）を比べてみました。オリンパス㈱以外の3社については、以下の流れで説明が付きまます。

良い製品を製造して売るので、利益率が高く営業効率は天井値。

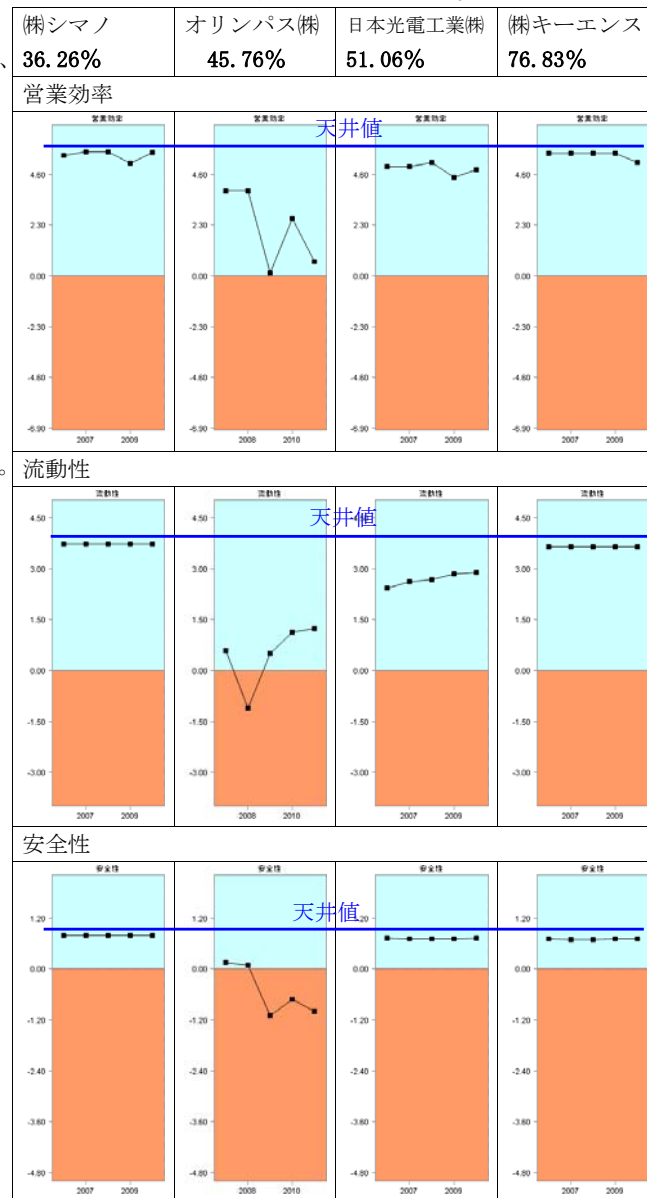
⇒儲かってお金がたくさん入ってくるので、流動性は天井値。

⇒儲かった利益が積み上がって純資産が増えるので安全性は天井値。

⇒よって企業力総合評価が高い。

しかし、オリンパス㈱だけが、何か矛盾が生じるような事象を起こしています。一体何が起きているのか、事件は発覚したばかりで、詳細は捜査結果を待つほかありません。

**まとめ** 素晴らしい製品を作ることが出来る会社であるが故に、残念です。儲ける力の充分ある会社は、損失カバー力も甚大なので、分析結果を一見しただけではわかりにくいのです。



**編集後記** 嘘はいけません。人に嘘を言っていると、その嘘に自分自身もごまかされます。どんなに偉くなっても、間違ったり、失敗したりしたら、「ごめんなさい。」を言わなくては。文責MS  
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所  
Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp